

# 離島トライアスロン大会開催による地域活性化の 波及効果に関する研究

—運営手法の違いが地域愛着に及ぼす影響—

松本耕二\*

山本公平\*

抄録

本研究は、離島のトライアスロン大会開催による地域活性化を運営手法の違いによる経済的効果及び社会的効果の波及の差異と課題を地域住民と大会主催者等への意識調査によって明らかにすることを目的としている。大会運営を行政が主導する全日本宮古島トライアスロン大会と、民間の専門業者に委託して開催した石垣島トライアスロン大会を事例として、大会関係者へのヒアリング調査と地域住民を対象とした質問紙調査を実施した。地域住民に郵送法による質問紙調査を実施した結果、宮古島では474（有効回答率23.7%）、石垣では188（有効回答率8.8%）のサンプルを得て分析した結果、以下の通りとなった。

トライアスロン大会の開催による地域への経済的及び社会的な効果に対する地域住民の大会イメージは、すべての項目で宮古島大会が高い値を示した。石垣島大会においても大会イメージの肯定的回答割合は高い結果となったが、地域内での結びつきに関する項目が宮古島大会よりもやや低い値となった。

地域住民の大会と地域愛着は、宮古島大会では、大会によって地域内の結びつきが促進され、大会開催が誇りであると感じるほど、地域（宮古島）への愛着が高くなっている。他方、石垣大会では、大会が地域（石垣）のイメージ向上に役立っており、大会関係者が地域住民に関心を持ってもらうように懸命であると感じるほど、地域（石垣）への愛着が高くなっている。

以上の結果から、離島トライアスロン大会の開催は、地域住民へ経済的及び社会的に肯定的な効果を与えていることが明らかとなった。その傾向は行政が主導する宮古島大会で顕著であった。また専門業者に委託し開催した石垣島大会においても同様の高い効果を示したが、地域との結びつきに関する課題が明らかとなった。

キーワード：、離島、地域活性化、運営手法、トライアスロン大会、地域愛着

---

\* 広島経済大学 〒731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1

# Influence of Triathlon Events on Regional Vitalization of the Isolated Islands

Focusing on the Relationship between Events' Management  
and the Development of Place Attachment

Koji Matsumoto \*  
Kohei Yamanamoto \*

## Abstract

The purpose of this study is to investigate relationship between the management of sports events and local residents' feelings of attachment to the isolated island. This study covers the following two triathlon events: "All Japan Triathlon Miyakojima" which is initiated by government and "Ishigaki Triathlon" which is managed by private companies with expertise and experience. The data was obtained by questionnaires distributed to 474 residents who live in Miyakojima island, and 188 ones in Ishigaki island.

The major results are as follows;

- 1) The samples living in Miyakojima island showed a high positive event image points for all items about economic and social effects. And the samples living in Ishigaki island also showed a high positive event image points. However, items about relationship with the community, were a slightly lower than Miyako's.
- 2) The results of multiple regression analysis using the stepwise method, "the event promotes the emotional ties to our community" and "It is pride to hold an event in your island" were related to the community attachment in Miyakojima island. Using a same analysis, "this event has helped to improve the image of your island" and "I feel that the event staffs work harder for event interests" were related to the community attachment in Ishigaki island.

From the results, triathlon events enhance economic and social positive effects to the local residents. The effect was more pronounced in Miyakojima event. Although the same high effect was shown also in the Ishigaki event, the issue about connection with triathlon events and the area became clear.

Key Words : triathlon, regional vitalization, event management, isolated island

---

\* Hiroshima University of Economics 5-37-1 Gion, Asaminami, Hiroshima 731-0192 Japan

## 1. はじめに

わが国は6,852の島を有し、本土を除き418の有人島が存在するという(日本離島センター)。本土と比較して自然的にも社会的にも厳しい条件の中で人口の減少と高齢化が進む離島において、トライアスロン大会の開催によって、交流人口の増加等、地域活性化を図る地方自治体は少なくない。

スポーツイベントは、社会的効果、経済的効果、環境的効果、文化的効果などのベネフィット(山口ら, 2015)がある。大会開催により、地域(島)外からの誘客、観光および関連産業の活性化、対外的な知名度の向上などの経済的効果、また住民の地域への誇り・愛着の醸成、一体感・コミュニティ意識の高揚、住民の社会参加・貢献意識やホスピタリティの向上などのソフト面での効果や、社会資本の整備の進展や地域開発の誘発といったハード面での効果(中国経済白書, 2013)が期待できる。

トライアスロンはオリンピックの正式種目であり、2016年には国民体育大会の正式競技にも採用されている。日本トライアスロン連合(JTU)では戦略的普及・活性化に注力し、2015年現在、競技人口は約37万5千人、大会数は290に達している(JTU, 2015)。離島は、トライアスロンの競技特性から大会開催において諸条件が整う格好の環境ともなり、競技人口を増やしたい競技団体と来島者を増やし活性化させたい離島との思いが重なるところでもある。

これまでのトライアスロン大会による地域活性化に関する先行研究を概観すると、参加者及びボランティア等を対象とした調査(増井ら, 1996; 増井, 1997; 堺, 1997, 1998, 2000; 原田ら, 1998)がその多くを占めている。筆者らの離島におけるスポーツ振興による地域活性化の事例研究(2016)では、大会運営が、地方自治体によって主導される大会と専門業者に運営を委託して行なわれる大会とに大別されることが明らかとなり、その効果を主催者側からのヒアリングによって明らかにしてきた。その結果、地方自治体型は住民の郷土意識を高めるような社会的効果に注力した大会運営を行い、専門業者委託型<sup>2</sup>は、国際トライアスロン連合の「見せるスポーツ」に注力した運営を行っていることが明らかとなった。しかしながら、これら二つの運営手法による地域住民の意識の違いを整理することが課題として残された。

そこで本研究では、トライアスロン大会の運営手法の違いが、地域活性化の波及効果にどのような差異を生じさせているかを地域住民の意識を明らか

にすることを目的として取り組むこととした。

ここではトライアスロンの数ある大会の中から、運営手法以外の影響を排した考察を可能とするために、地理的環境が相似し、かつ、運営手法が異なる全日本宮古島トライアスロン大会(以後、宮古島大会)及び石垣島トライアスロン大会(以後、石垣島大会)を調査対象として研究を行うこととした。

本研究によって、地域住民の視座から2つの異なる運営手法による地域振興の浸透効果及び課題が明らかとなる。それらが地域の活性化を目的としたトライアスロンをはじめとしたスポーツイベント運営手法の策定に求められる適正な経営資源の配分について有益な知見を与えることに繋がることとなる。

## 2. 目的

本研究は、トライアスロン大会開催による地域活性化の運営手法の違いによる経済的効果及び社会的効果の波及における差異や課題を地域住民と大会主催者等への意識調査によって明らかにするものである。

## 3. 方法

本研究では、目的を達成するために、大会関係者らへのヒアリング調査と地域住民(市民)を対象とした意識(質問紙)調査を実施した。

### 3-1. 調査方法

#### 1) 大会関係者向けヒアリング調査

離島のスポーツ振興及びトライアスロン大会開催の現状と課題および将来展望について、宮古島大会と石垣島大会のフィールドワークと大会関係者(大会事務局および市役所スポーツ振興担当課)や地元関係者(地域住民、商工会関係者)ら複数人に非構造化インタビューによるヒアリング調査(2015年5月~8月)を実施した。

#### 2) 地域住民への意識調査

地域住民の大会に対する意識(大会イメージ)を明らかにするために質問紙を用いた調査を実施した。

#### ① 調査方法

調査は、宮古島市および石垣市のスポーツ振興担当者に配布を依頼した。調査票の配布は、返信用封筒入りの質問紙を各地区自治会連絡員からの手渡しと地域イベント等においてランダムに配布された。

#### ② 調査項目

質問紙の調査項目は、個人的属性(7項目)、大会認知度と参与状況(7項目)、大会イメージ(10項目)、地域愛着(8項目)で構成した。なお、大会イメージはZhang et al. (2001)のコミュニティイ

<sup>1</sup>地元地方自治体等が中心となって大会を運営する

<sup>2</sup>トライアスロン専門の企画会社に大会運営を委託する

メージ項目を翻訳し大会用に改編して用いている。また地域愛着はEdnie et al. (2010) の地域愛着項目を翻訳し援用している(松本ら, 2015)。

### ③ 調査期間

調査期間は2015年9月から12月末までの4ヶ月間であった。

その結果、宮古島市での調査(以後、宮古島)では474部(有効回答率23.7%)、石垣市での調査(以後、石垣)は188部(有効回答率9.4%)の有効回答を得た(表1)。

表1. 調査票回収数(率)

	宮古島		石垣	
配布依頼数	2,000		2,000	
回収数(率)	486	24.3%	199	10.0%
有効回答数(率)	474	23.7%	188	9.4%

※ 回収率の差は実際の調査票配布数に差が生じたことによる。

### 3) 分析方法

質問紙調査によるデータは、単純集計および記述統計量を算出し、大会ごとにその特徴を把握した。

大会イメージと地域愛着を構成する項目は「6. 非常にあてはまる」から「1. 全くあてはまらない」までの6段階のリッカートを設定した。また段階評定順にそれぞれ6~1点を与え、構造を確認するための因子分析(最尤法プロマックス回転)を行った上で、合計得点を算出している。そして大会イメージ10項目のそれぞれを説明変数とした重回帰分析(Stepwise法)を行い、それぞれの大会と地域愛着(合計点)との関連を探っている。なおデータの分析にはPASW19.0を使用した。

## 4. 結果及び考察

### 4-1. ヒアリング調査

#### 1) 宮古島トライアスロン大会

##### ① 大会の現状と課題

宮古島は沖縄本島から南西約300kmに位置する島である。風光明媚な石垣島が中心の八重山諸島とは異なり、平坦な地形の農業主体の島で観光面において立ち後れていた中で、1984年にハワイのアイアンマンレースの成功事例をもって琉球新報社から開催の働きかけがあった。全国規模のスポーツイベントにしようとする宮古島大会開催の機運が盛り上がり、当時5市町村に分かれていた宮古島の全島行事として1985年に第1回大会が開催された。

第1回大会はNHKのテレビ生中継で放映され、宮古島大会が全国に知られることとなった。第1回大会では241名だった参加者数は毎年増加し第9回大会では1,000名を超え国内最大級の大会となった。2015年に開催された第31回大会では、抽選の結果1,474名が参加している。招待選手を含めた外国人選手も第1回大会から多く参加しており、第15回

大会以降はおおむね50名を超えている。

宮古島大会は宮古島市と琉球新報社の主催で開催されており、宮古島市観光商工局商工物産交流課に全日本宮古島トライアスロン実行委員会事務局を設置し、専従者17名体制で企画・運営に従事している。内閣府や自衛隊、マスコミ等の後援や協力も取り付け、島中が協力する形での運営形態をとっている。まったくの手探りで始めた大会であるため、救命医療体制の対応能力をみながら参加者数の増加や年齢制限を65歳と設定するなど進められてきている。コースは、島の全体の地域を一周するようなロングコースを採用している。

長浜(1998)は、大会の主催者として宮古島大会の成果を5点に整理している。すなわち「トライアスロンの島」等のイメージ効果、住民が宮古島に自信と誇りを持つ等の社会的効果、地方自治体及び各団体の連帯効果、教育・文化的効果、経済的効果である。経済的効果について、宮古島大会での来島者は、選手、マスコミ、ボランティア等で7,000名弱と推計され、その経済効果は3億2,600万円と試算されている。商工会議所<sup>3</sup>へのヒアリングによると、宮古島大会の成功からプロ野球のキャンプ誘致に成功し<sup>4</sup>、その影響で大学や実業団等のスポーツ合宿が毎年10月から3月末まで開催されるようになった経済効果を評価している。

一方で、宮古島大会の運営について、産業界ではリピーター参加者が多いことへの不満の声もある。リピーターは島内の知人宅へ宿泊し、土産品の購入額も少ないなど、初参加者と比べて経済効果が低いことから、リピーターの参加割合枠の設定を実行委員会に依頼しているという。

##### ② 大会の将来展望と宮古島のスポーツ振興

宮古島市は観光産業を「経済振興を牽引するリーディング産業」と位置づけており、トライアスロンの他にも宮古島100kmワイドマラソンやツール・ド・宮古島、エコアイランド宮古島マラソン等のスポーツイベントが毎月のように開催され、その多くを市が主催している。市の担当課<sup>5</sup>は「市としては主催しないと大会運営を存続させることはできないと判断し、予算措置も行っている。」と述べている。すなわち、観光産業の柱の一つであるスポーツイベントは今後も市が主導で開催運営を行うことで、経済的及び社会的な効果による市の振興、活性化を進めていく方針であるという。

<sup>3</sup> 2015年8月6日に宮古島商工会議所指導課長から聴取。

<sup>4</sup> プロ野球オリックスのキャンプは、行政が島内施設の老朽化改善に対応できなかったために2013年をもって撤退した。

<sup>5</sup> 2015年8月8日に宮古島市商工物産交流課イベント交流係係長から聴取した。

表2. 対象トライアスロン大会の概要

大会名	全日本宮古島トライアスロン大会	石垣島トライアスロン大会
開催地	沖縄県宮古島市	沖縄県石垣市
市人口	54,519人(2015/12現在)	49,159人(2015/12現在)
島総面積	204.18km <sup>2</sup>	229.27km <sup>2</sup>
主催	宮古島市, 琉球新報社	(公社)日本トライアスロン連合(JTU)
共催		石垣市, 琉球新報社, 沖縄テレビ 日刊スポーツ新聞社
主管	宮古島市体育協会 宮古島トライアスロン実行委員会	八重山トライアスロン協会
競技	スイム3km, バイク157km, ラン42.195km (ロング・ディスタンス)	スイム:1.5km, バイク:50km, ラン10km (オリンピック・ディスタンス)
経済効果	3億2,600万円	3億6,000万円
大会 (2015年度)	第31回全日本トライアスロン宮古島大会 2015年4月19日	石垣島トライアスロン大会2015 2015年5月24日
出場者数	1474名	エイジ部門:883名, リレー部門71組(213名)

## 2) 石垣島トライアスロン大会 (以後, 石垣島大会)

### ① 大会の現状と課題

石垣島は先述した宮古島から南西約130kmに位置する島である。風光明媚な八重山諸島の拠点であり、多くの観光資源を持つ。1987年に島の有志によって第1回大会が開催された石垣島大会は、1990年から石垣市も実行委員会に加わり、1996年からはワールドカップ大会となった。ワールドカップ大会となったことでレースの正確な運営が求められるようになり、日本トライアスロン連合(JTU)を通じて専門業者に競技運営・実施について委託する形を採択した。しかし国際トライアスロン連合の制度変更で2009年大会から最高峰である世界選手権に準ずる大会となったことから、市の予算も半額となってしまった。2015年大会は日本トライアスロン連合主催で市からの予算はなく、ボランティア協力のみであった。

おきぎん経済研究所は、2009年大会の経済効果を直接効果として3億6,000万円、間接的な効果も含めた全体効果を6億1,900万円と試算している。市担当課<sup>6</sup>は、ワールドカップとなってからプロ野球やサッカー日本代表(U-22)のキャンプ誘致に成功し、大学や高校の合宿も開催されるようになったことや、大会で配布するノベルティ商品やTシャツ等の関連企業の成長を評価している。

商工会<sup>7</sup>へのヒアリングでは、産業界として大会開催は評価しているが、スポーツ振興よりも観光振興を重視している。また、ワールドカップとなって以降大会規模が大きくなりすぎて地元産業界とのギャップが生じていると指摘した。NTTがメインスポンサーで島内企業もスポンサーとして協力したい

<sup>6</sup> 2015年8月6日に石垣市観光スポーツ交流課課長、イベント交流班班長、大会担当者から聴取した。

<sup>7</sup> 2015年8月6日に石垣市商工会事務局局長から聴取した。

が、スポンサー募集の最低額が100万円では協力できる島内企業は限られてしまうと述べる。

大会参加者は、トライアスロン競技の性格上、生活にゆとりのある層が多いとし、石垣島マラソン参加者に数日前から合宿形式で特別メニューも用意する小浜島のホテルメニューと同様の長期滞在型の参加をトライアスロンでも希望している。

### ② 大会の将来展望と石垣島のスポーツ振興

石垣市も宮古島市と同様に観光産業を地域経済活性化のためのリーディング産業と位置づける。観光におけるスポーツ施策は、スポーツツーリズムと捉え「スポーツ！ウエルカム！石垣島！」を展開する。スポーツキャンプが集まる場所「石垣島」として、新規を含め積極的にキャンプや大会等の誘致を進めている。また石垣島マラソンを日本最南端のフルマラソンとして、石垣島大会と同様に振興している。スポーツツーリズムを振興するスポーツ交流課に石垣島大会を所管するイベント交流班(職員3名、嘱託2名)と市民向けスポーツを推進するスポーツ推進班(職員5名)を置いている。担当班は、先駆者である宮古島大会はロングコース(ロング・ディスタンス)であり石垣島大会はショートコース(オリンピック・ディスタンス)であることから競技者の棲み分けはできているという。宮古島市の大会運営について、運営担当者の世代交代がうまくできていること、また島の年中行事として住民に広く受け入れられており「トライアスロンの島」を強く打ち出している点を指摘した。

一方で、石垣市のスポーツツーリズム振興については、新しい事業を興して回り出すまでが行政の仕事であり、安定的な運営が可能となった時点で行政は手を引く立場であると主張する。事業のプランニングから実行までの中で、企画及び予算の確保を行政が行い、実行は民間等の団体へと機能分担することが望ましいとした。石垣島大会も民間主導としていき、行政は道路規制や公共施設利用の協力と行った形で協力していくと述べた。

## 4-2. 地域住民へ質問紙による意識調査

### 1) サンプルの属性

両島で実施した質問紙による意識調査のサンプルの属性を表1に示す。

性別および年齢をみると、宮古島のサンプルは、男性(57.0%)より女性(43.0%)が多く、60代(32.8%)、50代(26.6%)で6割弱を占める。一方で、石垣のサンプルは、女性(62.2%)が男性(37.8%)より多く、40代(34.4%)、30代(26.3%)で6割を占めている。職業では、宮古島は、第三次産業(40.8%)第一次産業(21.3%)、そして無職

(13.7%)の順で多い。石垣は、第三次産業が6割強(65.4%)を占め、次いでその他(12.2%)であった。居住年数は、宮古島で40年以上が46.0%と最も多く、20年以上が7割(72.5%)であるのに対し、石垣では30-40年未満(15.1%)が最も多いが各カテゴリーに均等に分散している。平均居住年数は宮古島が35.95年、石垣は18.68年であった。

表3. サンプルの属性

項目	宮古島		石垣		
	n	%	n	%	
性別	男性	270	57.0%	71	37.8%
	女性	204	43.0%	117	62.2%
年齢(年代)	10代	0	.0%	7	3.8%
	20代	9	1.9%	17	9.1%
	30代	56	12.0%	49	26.3%
	40代	67	14.3%	64	34.4%
	50代	124	26.6%	28	15.1%
	60代	153	32.8%	15	8.1%
	70代以上	58	12.4%	6	3.2%
	平均	55.75±12.98		43.31±12.72	
婚姻	独身	87	18.8%	46	24.6%
	既婚	360	77.6%	138	73.8%
	その他	17	3.7%	3	1.6%
職業	第一次産業	98	21.3%	2	1.1%
	第二次産業	36	7.8%	9	4.8%
	第三次産業	188	40.8%	123	65.4%
	専業主婦	48	10.4%	17	9.0%
	無職	63	13.7%	8	4.3%
	学生	0	.0%	6	3.2%
	その他	28	6.1%	23	12.2%
学歴	小・中学校卒	30	6.4%	12	6.5%
	高校卒	210	44.8%	52	28.0%
	専門学校卒	75	16.0%	37	19.9%
	短大・高専卒	61	13.0%	37	19.9%
	四年制大学卒	89	19.0%	45	24.2%
	大学院修了	1	.2%	3	1.6%
	その他	3	.6%	0	.0%
	平均	35.95±21.53		18.68±15.99	

## 2) 大会認知度と参与状況

サンプルの大会認知度は、宮古島での大会の認知度は100.0%であった。また石垣島では98.4%とほぼ全員が認知していた。次に、大会への参与状況をみると、沿道での応援など直接観戦については、宮古島が90.4%、石垣が76.1%と両大会とも高い割合であった。さらに大会ボランティアとしての参加経験は、宮古島の57.9%に対し、石垣は32.4%で

あった。宮古島は9割の観戦と6割のボランティア参加経験という実態が明らかとなった。これらから宮古島のほうが石垣よりも大会への住民の関わりが高い傾向にあることがわかる。なお、大会への出場については住民の参加しやすい大会プログラムであることからか石垣(14.4%)が宮古島(6.8%)より多くみられた。

表4. 大会認知度と参与状況

	宮古島		石垣		
	n	%	n	%	
認知度	知っている	472	100.0%	185	98.4%
	知らない	0	.0%	3	1.6%
直接観戦	あり	425	90.4%	143	76.1%
	なし	45	9.6%	45	23.9%
ボランティア参加	あり	272	57.9%	61	32.4%
	なし	198	42.1%	127	67.6%
大会出場	あり	32	6.8%	27	14.4%
	なし	438	93.2%	161	85.6%

## 3) 大会イメージ

大会イメージの項目には、Zhang et al. の10項目を援用し、「1.全くそう思わない」から「6.非常にそう思う」までのリッカートタイプの6段階尺度を設定し測定した(図1)。

宮古島では、肯定的回答(「非常にそう思う」+「そう思う」+「ややそう思う」)が多い順に、「この大会は、まちを代表するイベントである」(97.4%)、「この大会が、開催地域のイメージ向上に役立っている」(94.2%)、「この大会は、開催地域で尊重されている」(92.7%)、「この大会を開催できたことを誇りに思う」(90.8%)であり、その数値は9割を超えている。

他方、否定的回答(「全くそう思わない」+「そう思わない」+「ややそう思わない」)が多い順に「この大会が、地域の結びつきを促進することは確かである」(22.2%)、「この大会が、開催地域の住民の仲間意識を高める(18.2%)」であった。しかし、大会イメージのすべての項目でほぼ8割以上が肯定的回答であり、この大会が圧倒的な肯定的支持を得ていることがわかる。

石垣では、肯定的回答が多い順に、「この大会が、開催地域のイメージ向上に役立っている」(80.5%)、「この大会を開催できたことを誇りに思う」(78.4%)、「この大会は、まちを代表するイベントである」(77.8%)であった。他方、否定的回答が多い順では「この大会は、密接に地域との交流をはかっている」(43.8%)、「この大会が、開催地域の住民の仲間意識を高める」(39.5%)、「この大会が、地域内の結びつきを促進することは確かである」(39.5%)

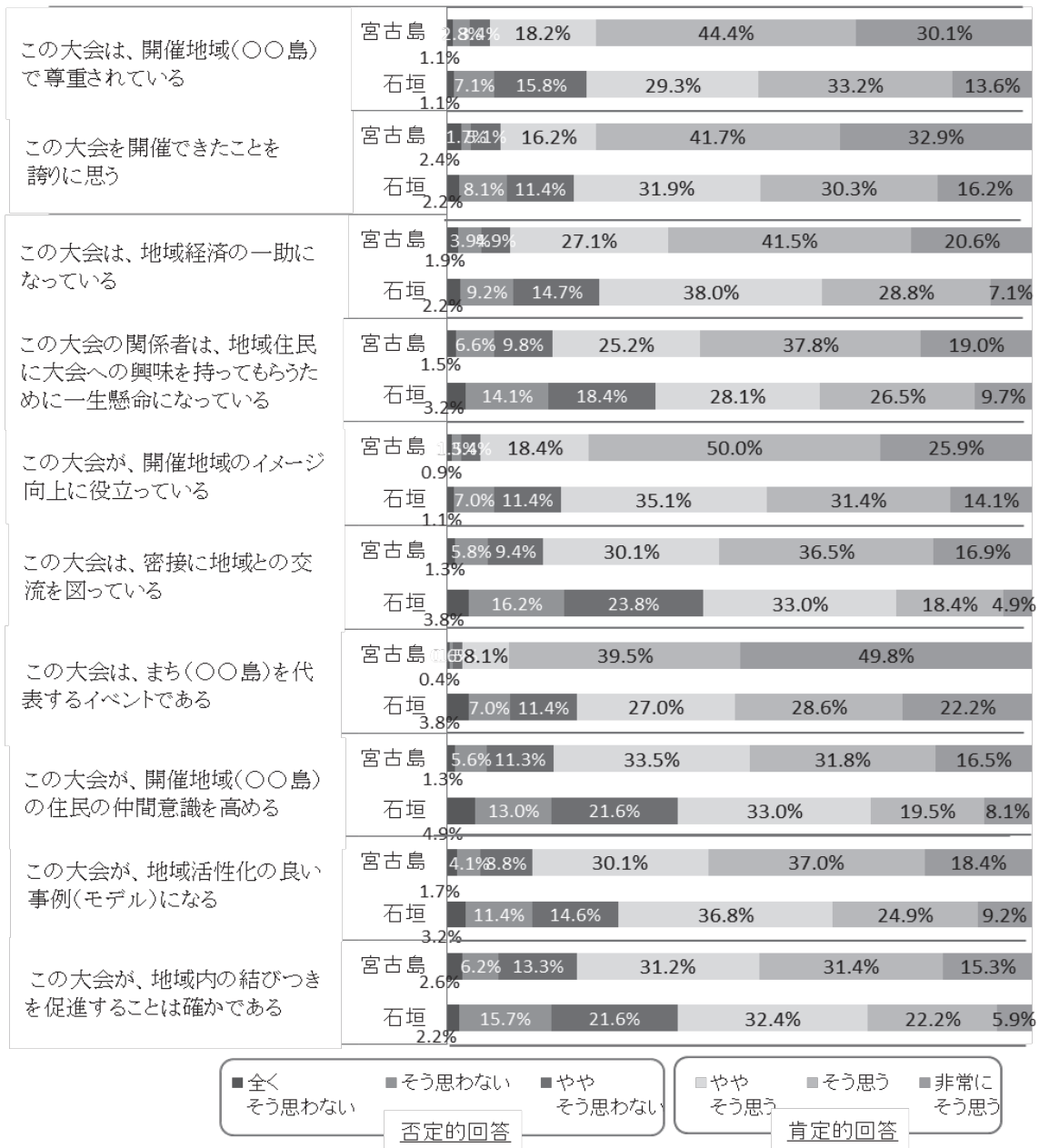


図1. 大会イメージ

であった。

これらの結果から、肯定的回答が多い項目は、宮古島も石垣も同様の項目が挙がっており、大会が地域を代表するイベントであり、その大会を開催することの誇り、またそのことによる地域イメージの向上といった社会的効果が認められていることがわかる。殊にこの社会的効果は、自治体が主催し歴史のある宮古島では非常に高かった。他方、否定的回答の割合は、この大会が地域内の住民との交流や結びつき、仲間意識などの一体感、連帯感の醸成などが他の項目に比して高くなっている。この傾向は大会運営を外部専門業者に委託する石垣のほうに多くみられた。年一度のイベントであることの特性と

もとれるが地域住民により浸透した大会運営を図るにはこれらの点に配慮することが課題となろう。

#### 4) 地域愛着と大会イメージ

ここでは地域住民の地域愛着に影響する大会イメージ項目を探ることとした。そのため地域愛着8項目を最尤法(プロマックス回転)による因子分析を施し、因子構造を確認した。この結果、1因子となり、信頼性係数 $\alpha$ はともに.937、累積寄与率も66%を説明する結果となった(表5)。

表5. 地域愛着の因子分析結果(最尤法, プロマックス回転)

項目	宮古島				石垣			
	因子 負荷量	平均値	SD	$\alpha$	因子 負荷量	平均値	SD	$\alpha$
私にとって居住地域は、多くの意味をもっている	.894	4.98	1.059		.905	4.73	1.167	
居住地域は私の一部分である	.873	4.81	1.127		.876	4.51	1.249	
私は居住地域にとても愛着がある	.870	4.90	1.093		.860	4.59	1.207	
私は居住地域と強い一体感がある	.865	4.52	1.274		.857	4.05	1.331	
私が居住地域でしていることを他の地域ですることは考えられない	.825	3.97	1.482		.853	3.55	1.445	
私は居住地域が他のどの場所よりも多くの満足感を得ることができる	.817	4.32	1.305	.937	.806	4.01	1.256	.937
居住地域は私がしたいことができる最高の場所である	.694	4.29	1.292		.718	3.85	1.335	
私が居住地域で過ごした時間は、他の地域で過ごした時間と同じようにたやすく受け入れることができる	.645	4.34	1.242		.591	3.98	1.220	
合計点		36.09	8.283			33.21	8.554	
累積寄与率		66.407				66.273		

※[1.全くそう思わない]から[6.非常にそう思う]のリッカートタイプ6段階評定尺度に、素点1~6点を与え計量化した。

次に、地域住民の地域愛着に関連する大会に対する意識(イメージ)を明らかにするために、大会イメージ10項目を説明変数としてステップワイズ法による重回帰分析を施した(表6)。

表7. 大会イメージと地域愛着(重回帰分析 stepwise 法)

説明変数	B	標準 誤差	$\beta$	t	p
この大会が、地域内の結びつきを促進することは確かである	1.894	.387	.279	4.889	***
宮古島 この大会を開催できたことを誇りに思う	1.709	.429	.228	3.986	***
	R( $r^2$ )= .465 (.216)		F=	61.669	***
この大会が、開催地域のイメージ向上に役立っている	2.314	.683	.311	3.389	***
石垣 この大会の関係者は、地域住民に大会への興味を持ってもらうために一生懸命になっている	1.590	.595	.245	2.670	**
	R( $r^2$ )= .514 (.265)		F=	31.849	***

\*\* p<.01, \*\*\* p<.001

宮古島では、「この大会が、地域内の結びつきを促進することは確かである」( $\beta=.279$ ,  $p<.001$ )と「この大会を開催できたことを誇りに思う」( $\beta=.228$ ,  $p<.001$ )が地域愛着に有意に影響している( $F=61.669$ ,  $p<.001$ )。重相関係数 $R=.465$ ( $r^2=.216$ )で全分散の21.6%を説明している。これは、宮古島大会が地域内の結びつきを促進すると感じるほど、また大会開催が誇りであると感じるほど、地域(宮古島)への愛着が高まっていると解釈できる。

石垣では、「この大会が、開催地域のイメージ向上に役立っている」( $\beta=.311$ ,  $p<.001$ )と「この大会の関係者は、地域住民に大会への興味を持ってもらうために一生懸命になっている」( $\beta=.245$ ,  $p<.01$ )が地域愛着に有意に影響している( $F=31.849$ ,  $p<.001$ )。重相関係数 $R=.514$ ( $r^2=.265$ )で全分散の26.5%を説明している。これは大会が石垣のイメージ向上に役立っていることを感じるほど、大会関係者が地域住民に関心を持ってもらうように懸命であることを感じるほど、地域(石垣)への愛着が強くなっていると解釈される。

これらの結果から、宮古島では、大会が地域内の結びつき促進する手段であり、また長年にわたり大会を開催していること自体が宮古島住民の愛着を高めることとなり、連帯感や一体感を醸造していると理解することができる。また石垣では、大会が石垣のイメージアップの手段であり、またこの大会関係者らによって石垣に愛着をもつ地域住民へのアピールが重要であることを示唆していると解釈することができよう。

## 5. まとめ

本研究は、離島で行われるトライアスロン大会の運営手法の違いによる経済的効果及び社会的効果の波及における差異や課題を地域住民と大会関係者等への意識調査によって明らかにするものであった。

大会関係者らへのヒアリング調査及び地域住民(市民)を対象とした意識(質問紙)調査を実施した結果、以下のように纏めることができる。

トライアスロン大会の開催による地域への経済的及び社会的な影響に対する地域住民の意識(大会イメージ)は、すべての項目で宮古島大会が高い値を示した。大会は地域を代表するイベントであり、大会によって地域内の結びつきが促進される、大会開催が誇りであると感じるほど、地域(宮古島)への愛着が高まっていると解釈された。石垣市でのヒアリングからも宮古島は「トライアスロンの島」という意識を強く感じたと指摘しているように、日本におけるトライアスロン大会の黎明期から、島を挙げて手探りで大会を運営してきたという歴史が示されたものと言えよう。

石垣島大会の大会イメージの肯定的回答割合は高い結果となったが、地域内の結びつきに関する項目が宮古島大会よりもやや低い値となった。その要因として、石垣市のスポーツツーリズム施策への取組姿勢による専門業者への運営委託や、他の観光資源が豊富であること、さらには大会運営と地元産業界とのギャップ等が推測される。



石垣島大会開催が地域のイメージ向上に繋がり、誇りに感じるとの肯定的回答割合は高いことから大会への評価は高い。専門業者へ運営を委託する方式をとりながら地域内の結びつきをさらに高めていくあり方が求められるだろう。

行政主導型の代表的な事例として宮古島大会が、地域に経済的及び社会的効果を与えていることは先行研究と同様、明らかとなった。また専門業者委託型の事例としての石垣島大会も同様に高い効果を示したが、地域の結びつきに関する課題を指摘することができた。

今後、離島のみならず運営手法の異なるトライアスロン大会の事例より、日本トライアスロン連合の公式大会を専門業者委託型によって運営している他の地域の考察を行うことで、専門業者委託型の特性を一般化することが課題となる。

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。



#### 参考文献

- 石垣市 (2015) 「平成 27 年度 施策方針」  
宮古島市 (2015) 「平成 27 年度 施策方針」  
増井悟 (1998) 「トライアスロン大会が地域活性化に及ぼす影響について」 東海大学紀要, 体育学部  
松本耕二 (2015) 「市民型スポーツボランティアの地域愛着とチームイメージとの関連」 広島経済大学論集, 38(2), 13-20.  
長浜博文 (2000) 「トライアスロンによる地域おこし」 しまたてい第 13 号  
おきぎん経済研究所 (2009) 「2009 年石垣島トライアスロン大会の経済効果 (試算) について」 NEWS RELEASE(2009.12.28)  
堺賢治 (2000) 「スポーツイベントに関する研究 (3) : 住民の場合」 愛媛大学教育学部保健体育紀要  
高木ミナ (2015) 「公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU) に聞く「普及」と「強化」の両輪で走る日本トライアスロン界の未来戦略」 『トライアスロン・マガジン』 ベースボール・マガジン社  
中国地方総合研究センター(2013) 「スポーツによる地域活性化」 中国地域経済白書 2013, 中国電力エネルギー総合研究所  
山本公平, 松本耕二 (2016) 「離島におけるスポーツ振興による地域活性化の一考察 ～トライアスロン大会の事例を中心に～」 広島経済大学研究論集, 38 (4)